



身につきし我慢宝に卒業す

横山喜三郎

この子は成績はパツとしなかったけど根気強くなったねえ。「学力よりも我慢が宝」とは納得の人生訓。何事も継続は力なり。俳句もそうだわね。



花好きに取り巻かれたる標本木

門田智子

今日こそ開花宣言されるかと、愛好家は虫眼鏡を片手に標本木の蕾を凝視。この光景は、桜好きの日本人の共感を呼び、可笑しい。



春泥や何するんできべらぼうめ

土屋泰山

こちとらなりたくて春泥になったわけじゃねえんだよ。このオタンコナス。チョコザイな雪が降ったら長靴履いて歩いてんだ。馬鹿野郎。



お揃いで真面目に咲いてチューリップ

山本 賜

チューリップには邪心がない。複雑がない。色も形も単純明快。真面目で純真だからからかったりできないタイプである。直立でハイと大きな返事。



春の鬱まともなる句を駄句といふ

村山好昭

俳句の「俳」は、「滑稽」という意味である。勝手に言ってるんじゃないくて、文学の歴史書、辞書に書いてある。滑稽俳人こそ、まともなんだけどね。



踏青や手にドローンの操縦桿

工藤泰子

踏青にドローンが登場しましたか。想像しただけで楽しい緊張感とワクワク感があるね。「踏青」という伝統的な季語が、まったく新しくなった。